

# 道路事業の再評価説明資料

おおさわの とやまみなみ

## 〔国道４１号 大沢野富山南道路〕

令和３年１１月

北陸地方整備局

# 目 次

1. 事業概要		
(1) 事業の目的	.....	P 1
(2) 計画の概要	.....	P 2
2. 現在に至る経緯		
(1) 事業の経緯	.....	P 3
(2) 事業の進捗状況	.....	P 3
(3) 今後の事業展開	.....	P 3
(4) 前回事業評価からの変更点	.....	P 3
3. 事業の投資効果		
(1) 便益に係る整備効果		
① 走行時間の短縮	.....	P 4
② 交通事故件数の減少	.....	P 4
(2) その他の効果		
① 物流の信頼性の向上	.....	P 5
② 冬期交通の安定性の確保	.....	P 6
③ 第三次医療施設等へのアクセス向上	.....	P 7
事業の効果等	.....	P 8
4. 再評価の重点化・効率化判定票（道路・街路事業）	.....	P 9
5. 費用対効果	.....	P 10
6. 事業の必要性、進捗の見込み等	.....	P 11
7. 対応方針（原案）	.....	P 12

# 1. 事業概要

## (1) 事業の目的

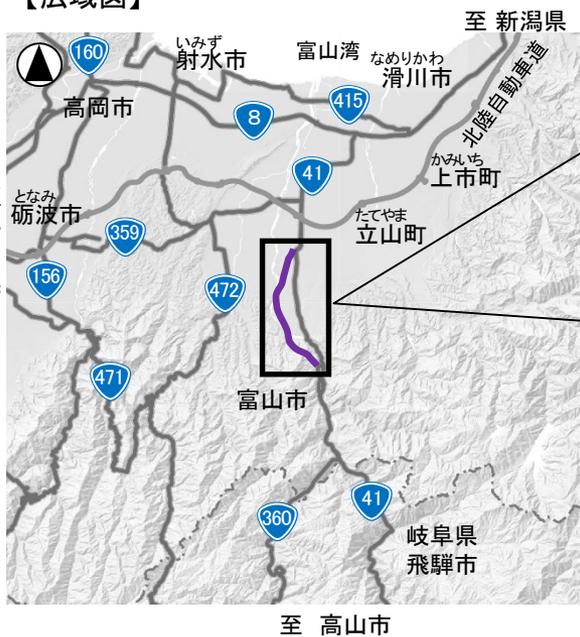
当事業は、高規格道路「富山高山連絡道路（延長80km）」の一部を構成する富山県富山市<sup>にれほら</sup>榆原～富山市<sup>くりやま</sup>栗山間（延長12.0km）において、

- 交通混雑の緩和や交通事故の削減
  - 物流の信頼性向上や冬期交通の安定性確保
  - 第三次医療施設等へのアクセス向上 など
- を目的とし、バイパス整備を行うものである。



至 飛騨市  
至 富山市街地  
写真：大沢野富山南道路(R2.11)  
(富山市<sup>くりやま</sup>栗山から飛騨市方面を望む)

### 【広域図】



### 【位置図】



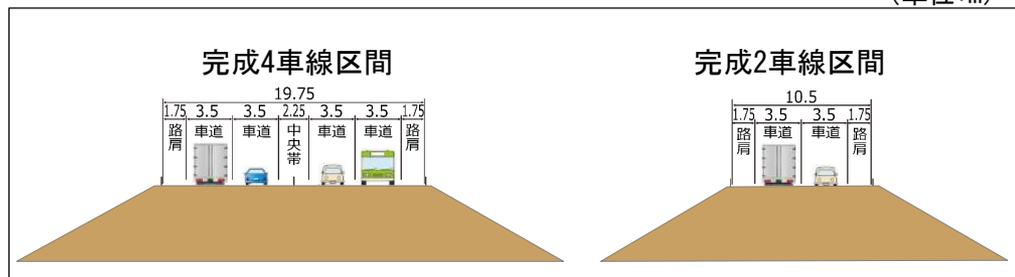
# 1. 事業概要

## (2) 計画の概要

- 事業名：国道41号 大沢野富山南道路
- 延長：12.0km
- 起終点：(起)富山県富山市<sup>これほら</sup>楡原  
(終)富山県富山市<sup>くしやま</sup>栗山
- 都市計画決定：平成23年度
- 事業化：平成26年度
- 全体事業費：約380億円
- 令和2年度末までの投資額  
：約51億円（進捗率14%）

【標準横断図】

(単位:m)



# 2. 現在に至る経緯

## (1) 事業の経緯

年 度	主な経緯
平成19年度	ルート帯の決定
平成23年度	都市計画決定
平成26年度	事業化
平成28年度	事業再評価(指摘事項なし、継続)
平成30年度	用地着手
令和元年度	工事着手

## (2) 事業の進捗状況

令和2年度末、金額は税込み

	全体	執行済額	進捗率	残事業費
事業費	約380億円	約51億円	14%	約329億円
うち用地費・補償費	約56億円	約12億円	21%	約44億円

○ 道路・構造物設計、地質調査、用地取得及び改良工事を実施している。

## (3) 今後の事業展開

○ 道路設計、用地取得、改良工事及び橋梁工事を推進し、早期開通を目指し整備を進める。

## (4) 前回事業評価からの変更点

○ 用地買収の難航や地籍調査が行われておらず用地測量に時間を要することが明らかとなったことから、事業期間を13年間から17年間に変更。

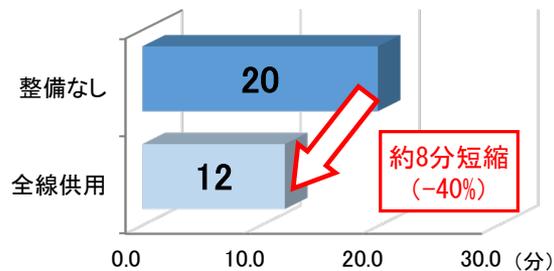


# 3. 事業の投資効果

(1) 便益に係る整備効果 ①走行時間の短縮、②交通事故件数の減少

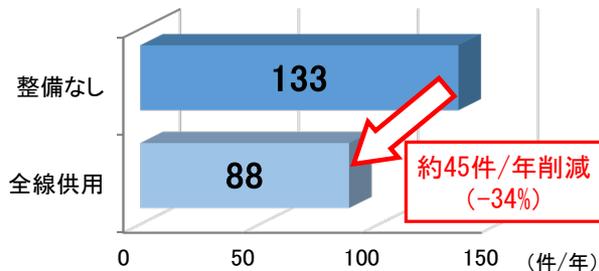
- ①大沢野富山南道路の整備により、円滑な走行環境が確保され、事業区間の走行時間は約8分の短縮が見込まれる。
- ②大沢野富山南道路の整備により、安全性の高いバイパスへ交通が転換し、年間約45件の死傷事故削減が期待される。

【走行時間の短縮】



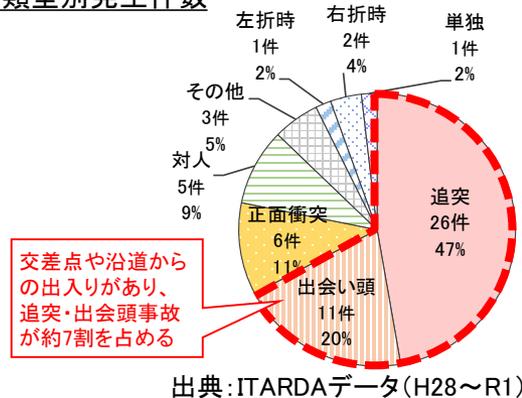
出典：整備なし(R12将来交通量推計値)  
全線供用(R12将来交通量推計値)

【死傷事故件数の削減】



出典：整備なし(R12将来交通量推計値)  
全線供用(R12将来交通量推計値)  
(旧大沢野町+旧細入村)

■事故類型別発生件数



■ 大沢野富山南道路現道区間の混雑状況



写真：大沢野地区における交通状況(R1.5)  
富山市上大久保から飛驒市方面を望む

■ 大沢野富山南道路現道区間の死傷事故発生状況



出典：ITARDAデータ(H28～R1)

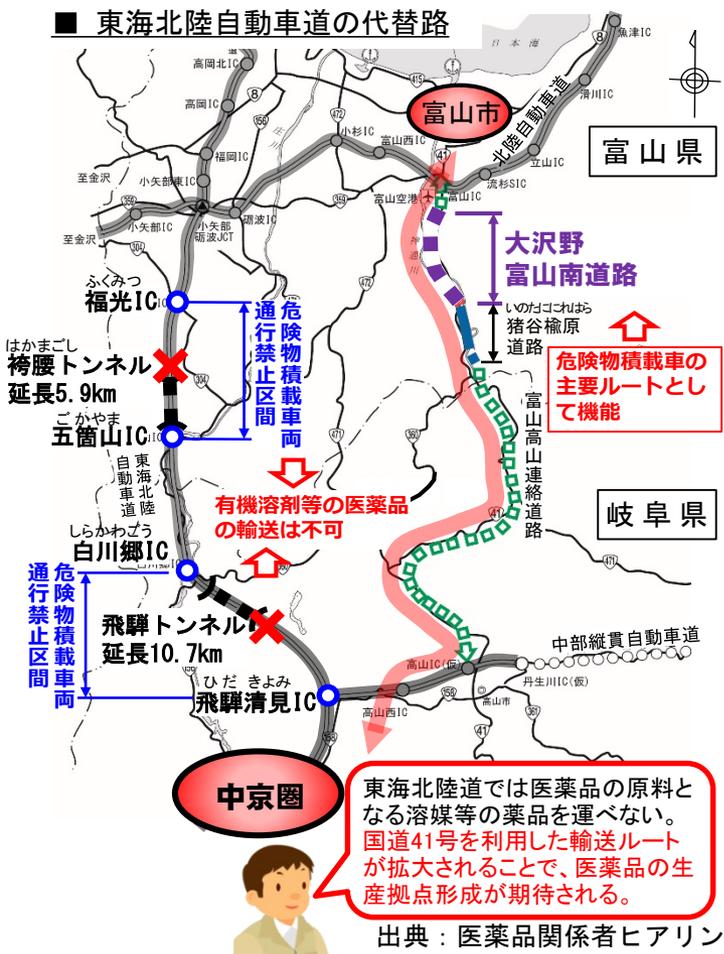
# 3. 事業の投資効果

## (2) その他の効果

### ① 物流の信頼性の向上

- 中京圏からの医薬品製造で使用する有機溶剤等の輸送は、東海北陸自動車道に危険物積載車両通行禁止区間があるため、主に国道41号を利用。ただし、国道41号岩稲～西笹津間では、斜面崩落等の災害危険箇所が存在。
- 大沢野富山南道路の整備により、国道41号の災害危険箇所を回避でき、医薬品製造業など地域産業を支える物流の信頼性が向上する。

#### ■ 東海北陸自動車道の代替路



#### ■ 医薬品医療機器等法に基づく毒物の輸送状況（富山市長附）（写真①）

名古屋ナンバーの危険物積載車両が国道41号を利用



写真①：国道41号を利用する危険物積載車両（H25.8）

#### ■ 国道41号の災害危険箇所と医薬品関連企業



国道下斜面崩落箇所【富山市岩稲地区】（52日間の通行規制）



写真②：岩稲地区の国道下斜面崩落（H22. 3. 9）

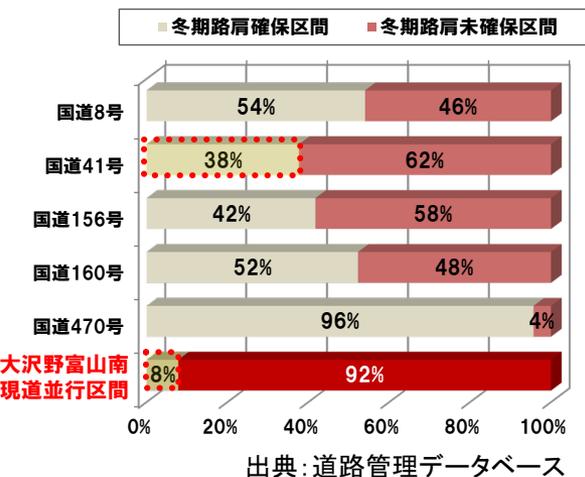
出典：医薬品関係者ヒアリング調査（H28. 6）

# 3. 事業の投資効果

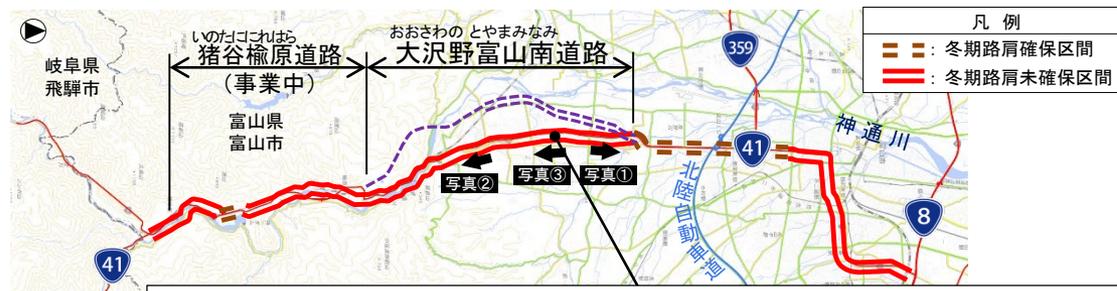
## ②冬期交通の安定性の確保

- 国道41号は、富山河川国道事務所管内の直轄国道の中でも冬期の堆雪路肩が確保されている区間の割合が少ない。特に大沢野富山南道路と並行する現道区間はその割合が1割以下となり、積雪時は大型車のすれ違いも困難となっている。
- 令和3年1月の大雪の際には、歩行者が車道を歩いている状況も確認され、大雪時の交通の安全性が懸念される。事業中の猪谷楡原道路とともに大沢野富山南道路を整備することにより、大型車などの交通がバイパスに転換することで冬期交通の安定性確保や冬期の安全な道路交通の確保が期待される。

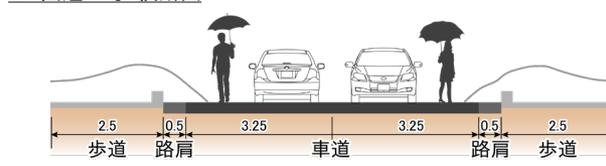
### ■ 路線別の冬期路肩の確保割合



### ■ 国道41号の冬期路肩確保区間



### ■ 国道41号 横断面図



冬期路肩(堆雪幅)が確保されていないため、車線や路肩幅員が減少

歩行者の通行に十分なスペースが確保できず、自動車とのすれ違いが非常に危険



路肩堆雪時には、大型車のすれ違いが困難。

写真①：積雪時の大型車相互通行状況 (H24.2) (富山市栗山地先)



写真②：路肩確保のための運搬排雪作業



歩行者を避けるため、反対車線にはみ出す車両

歩道が堆雪により通行できないため、車道を歩く歩行者

写真③：車道を歩く歩行者 (令和3年1月9日)

# 3. 事業の投資効果

## ③第三次医療施設等へのアクセス向上

- 第三次医療施設の富山県立中央病院は県内の医療の要であるとともに岐阜県からの搬送実績もあり、国道41号は救急搬送時の重要路線となる。
- 岐阜県飛騨市は、妊婦の一般健康診査及び産婦1ヶ月健康診査の委託医療機関に富山市の病院を指定しており、妊婦の約1割が富山市内で出産している。
- 大沢野富山南道路の整備により、地域医療施設への救急搬送支援や通院時の快適性・安全性が期待できる。

### ■ 富山市の医療施設までの時間



出典：平成27年度全国道路・街路交通情勢調査

### ■ 飛騨市との協定締結内容、飛騨市からの救急搬送件数

#### ① 相互応援協定等

都市間	協定締結日	協定名
富山市－高山市	H7. 5. 10	災害時相互応援協定
富山市－飛騨市	H17. 7. 13	消防相互応援協定
富山市－岐阜市	H20. 5. 12	災害時相互応援協定

出典：富山市地域防災計画資料編

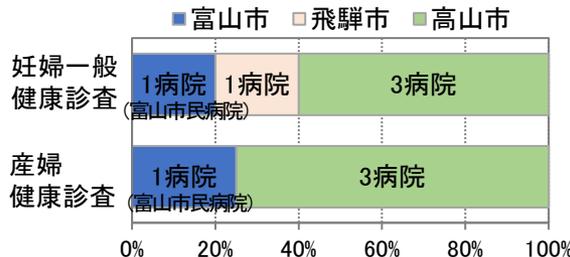
山間部の住民にとっては、国道41号が通れなければ病院にも買い物にも行けません



出典：富山高山連絡道路 大沢野富山南道路シンポジウム (H28.5)

#### ■ 飛騨市の出産に関わる委託医療機関・富山県での出生数

##### ① 飛騨市の委託医療機関

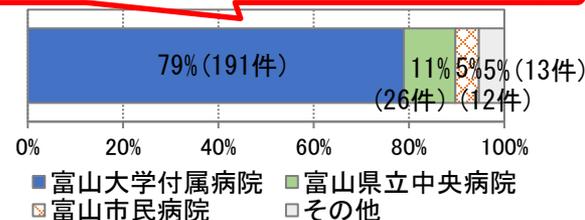


飛騨市には、委託医療機関が少なく、隣接市で受診

出典：飛騨市役所市民福祉部HP

##### ② 県境を越えた搬送実績事例 (H28-R2年計)

過去5年間で242回富山市に搬送 (約10日に1回の頻度)



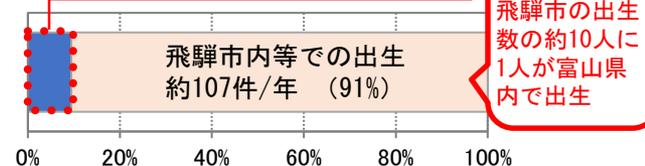
国道41号は、対面通行がほとんどで、道路幅員も狭い為、緊急運行時の追い抜きがしにくく、搬送時間に影響が出ています。



出典：飛騨市消防本部ヒアリング (R3.8)

##### ② 飛騨市における富山県での出生数 (H28-R2年度平均)

富山県での出生：約11件/年 (9%)



飛騨市の出生数の約10人に1人が富山県内で出生

妊婦さんは平均で12～14回の通院が多く、車での通院になるため、高い頻度で国道41号の利用が想定されます。



出典：飛騨市役所市民福祉部ヒアリング (R3.7)

# 3. 事業の投資効果

## 事業の効果等

### (1) 便益に係る整備効果

#### ① 走行時間の短縮

・大沢野<sup>おおさわの</sup>富山南<sup>とやまみなみ</sup>道路の整備により、円滑な走行環境が確保され、事業区間の走行時間は約8分の短縮が見込まれる。

#### ② 交通事故件数の減少

・大沢野<sup>おおさわの</sup>富山南<sup>とやまみなみ</sup>道路の整備により、安全性の高いバイパスへ交通が転換し、年間約45件の死傷事故削減が期待される。

### (2) その他の効果

#### ① 物流の信頼性の向上

・中京圏からの医薬品製造で使用する有機溶剤等の輸送は、東海北陸自動車道に危険物積載車両通行禁止区間があるため、主に国道41号を利用。ただし、国道41号岩<sup>いわいね</sup>稲<sup>にしきさづ</sup>～西笹津間では、斜面崩落等の災害危険箇所が存在。

#### ② 冬期交通の安定性の確保

・国道41号は、富山河川国道事務所管内の直轄国道の中でも冬期の堆雪路肩が確保されている区間の割合が少ない。特に大沢野<sup>おおさわの</sup>富山南<sup>とやまみなみ</sup>道路の現道区間はその割合が1割以下となり、積雪時は大型車のすれ違いも困難となっている。

#### ③ 第三次医療施設等へのアクセス向上

・第三次医療施設の富山県立中央病院は県内の医療の要であるとともに岐阜県からの搬送実績もあり、国道41号は救急搬送時の重要路線となる。

# 4. 再評価の重点化・効率化判定票（道路・街路事業）

年度： 令和3年度      事業名： 国道41号 おおさわの とやまみなみ 大沢野富山南道路

担当課： 道路計画課      担当課長名： 一木 慎太郎

項目	判定	
	判断根拠	チェック欄
事業を巡る社会経済情勢等の変化		
事業の効果や必要性、周辺環境等に変化がない	事業の効果や必要性、周辺環境等に変化がない	■
前回評価からの事業費・事業期間の増加		
事業費の増加	事業費の増加がない	■ <input type="checkbox"/>
事業期間の増加	事業期間の延長は 30.8%(13年→17年)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
前回評価からの費用対効果分析に関する影響要因の変化等		
費用便益分析マニュアルに変更がない	費用便益分析マニュアル改訂(H30.2)	<input type="checkbox"/>
需要量の変化(需要量等の減少が10%以内)	需要量の減少は無い	■
周辺ネットワークで新規事業化がない	周辺ネットワークで新規事業化がない	■
下記のうち、一方もしくは両方を満たしている ・事業費に比して費用対効果分析に要する費用が大きい ・前回評価時の感度分析における下位ケース値が基準値を上回っている	前回評価時における感度分析の下位ケース値が基準値を上回っている。 平成25年度感度分析の下位値 〔全体事業〕・交通量(-10%) B/C=1.5 ・事業費(+10%) B/C=1.6 ・事業期間(+20%) B/C=1.6	■
前回評価で資料の作成を省略していない		■
前回評価で費用対効果分析を省略していない		<input type="checkbox"/>
その他の事由(重点的な評価が必要な特別な事由)	なし	—
以上より、審議区分： <b>重点</b> 資料： <b>作成</b> 費用対効果分析： <b>実施</b> とする。		

# 5. 費用対効果

事業名	国道41号 <small>おおさわの とやまみなみ</small> 大沢野富山南道路							
起終点	起点：富山県富山市 <small>にればら</small> 榆原 終点：富山県富山市 <small>くりやま</small> 栗山					延長	12.0km	
事業概要	国道41号 <small>おおさわの とやまみなみ</small> 大沢野富山南道路は、「交通混雑の緩和や交通事故の削減」、「物流の信頼性向上や冬期交通の安定性確保」、「第三次医療施設等へのアクセス向上」などを目的とした、延長12.0kmのバイパス事業である。							
平成23年度都市計画決定	平成26年度事業化			平成29年度用地着手		令和元年度工事着手		
全体事業費	約380億円	事業進捗率 (令和2年度末)	14%	供用済延長	—			
計画交通量	8,000~26,100 台/日							
費用対効果 分析結果	B/C	総費用	(残事業) / (全体事業)	総便益	(残事業) / (全体事業)	基準年度		
	(事業全体) 1.7 (残事業) 2.1	294 / 361億円 事業費：233 / 299億円 維持管理費：62 / 62億円		610 / 610億円 走行時間短縮便益：481 / 481億円 走行経費減少便益：96 / 96億円 交通事故減少便益：34 / 34億円		令和3年度		
感度分析の結果								
(事業全体)	交通量：(-10%~+10%) B/C=1.5~1.8	(残事業)		交通量：(-10%~+10%) B/C=1.9~2.3				
	事業費：(+10%~-10%) B/C=1.6~1.8			事業費：(+10%~-10%) B/C=1.9~2.3				
	事業期間：(+20%~-20%) B/C=1.5~1.9			事業期間：(+20%~-20%) B/C=1.9~2.2				

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内容と一致しないことがある。

※費用対効果分析結果及び感度分析の結果の欄に係る数値は令和3年度評価時点。

※費用及び便益額は、10以上：整数止め、1.0より大きく10未満：小数点1桁止め、1.0以下：小数点2桁止めとする。

※費用対効果分析結果及び感度分析の結果は原則小数点1桁止め。ただし、四捨五入で1.0となる場合は、小数点2桁止め。

## 6. 事業の必要性、進捗の見込み等

### 事業の必要性等に関する視点

#### 【事業を巡る社会経済情勢等の変化】

- 前回事業再評価時以降、周辺に大きな社会経済情勢等の変化はない。

#### 【事業の投資効果】

- 本事業の整備により、「物流の信頼性の向上」、「冬期交通の安定性の確保」、「地域医療施設へのアクセス向上」などの効果が期待される。

#### 【事業の進捗状況】

- 事業の進捗状況：用地進捗率21%、事業進捗率14%（令和2年度末）
- 残事業の内容：橋梁工事、改良工事

### 事業の進捗の見込みの視点

- ・ 道路設計、用地取得、改良工事及び橋梁工事を推進し、早期開通を目指し整備を進める。

### コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

- ・ 建設発生土の有効活用や新技術の活用等により、コスト縮減を図る。

### 関係する地方公共団体等の意見

- ・ 地域から頂いた主な意見等：富山高山連絡道路整備促進期成同盟会や富山・岐阜県等から整備促進の要望を受けている。
- ・ 知事 の 意 見：事業継続に同意する。なお、今後ともコスト縮減に努め、早期に効果が発現されるよう整備促進に格段の配慮をお願いしたい。

## 7. 対応方針（原案）

### 事業継続

（理由）

- ・当該事業は、現時点においても、その必要性、重要性は変わっておらず、事業進捗の見込みからも、引き続き事業を継続することが妥当であると考えます。